

妖交尾奇譚

悪霊悪堕ち



遊郭幽霊の肉壺を調教し

妖を人間に差し出す従順な性奴隷にする男

人々に捨てられた廃村に。。。

朽ち果てた一軒の遊郭がある。。。

男の欲望渦巻く場所も。。。今は誰も訪れる事はない。

遊女

あゝ

そんな場所に。。。何時の頃からか。。。

こんな噂が囁かれるようになった。。。

遊郭に遊女の幽霊が現れ。。。夜な夜な男を探している。。。

「その遊女の幽霊に見入られると。。。」

「最高の快楽を味わいながら

命尽きるまで精液を搾り取られる。。。」

私は。。。その話を聞き。。。

遊女の幽霊と交尾してみたくなった。。。

私の二物でいやらしい汗を垂れ流す肉壺を蹂躞し。。。

従順な性奴隷として飼育してやりたいのだ。。。

幽霊とは言え女。。。太く長い肉棒で可愛がってやれば

仔犬のように懐くだろう。。。

ああ。。。今から楽しみだ。。。

「肉棒を突き立てられた幽霊は。。。どんな声で鳴くのか。。。」



そこには。。。スツキリと存在が感じられる

艶めかしい一匹の女幽霊が居た。。。。

「んあつ。。。あんつ♡」

「おまんこ。。。きもちいい。。。♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

その女幽霊は**自慰**で自分の肉穴を慰めている。。。

「男が欲しいのだな。。。幽霊も。。。」



部屋の中には発情した雌の匂いが充満し。。。。

交尾の準備が出来ている事を雄に知らせている。。。。

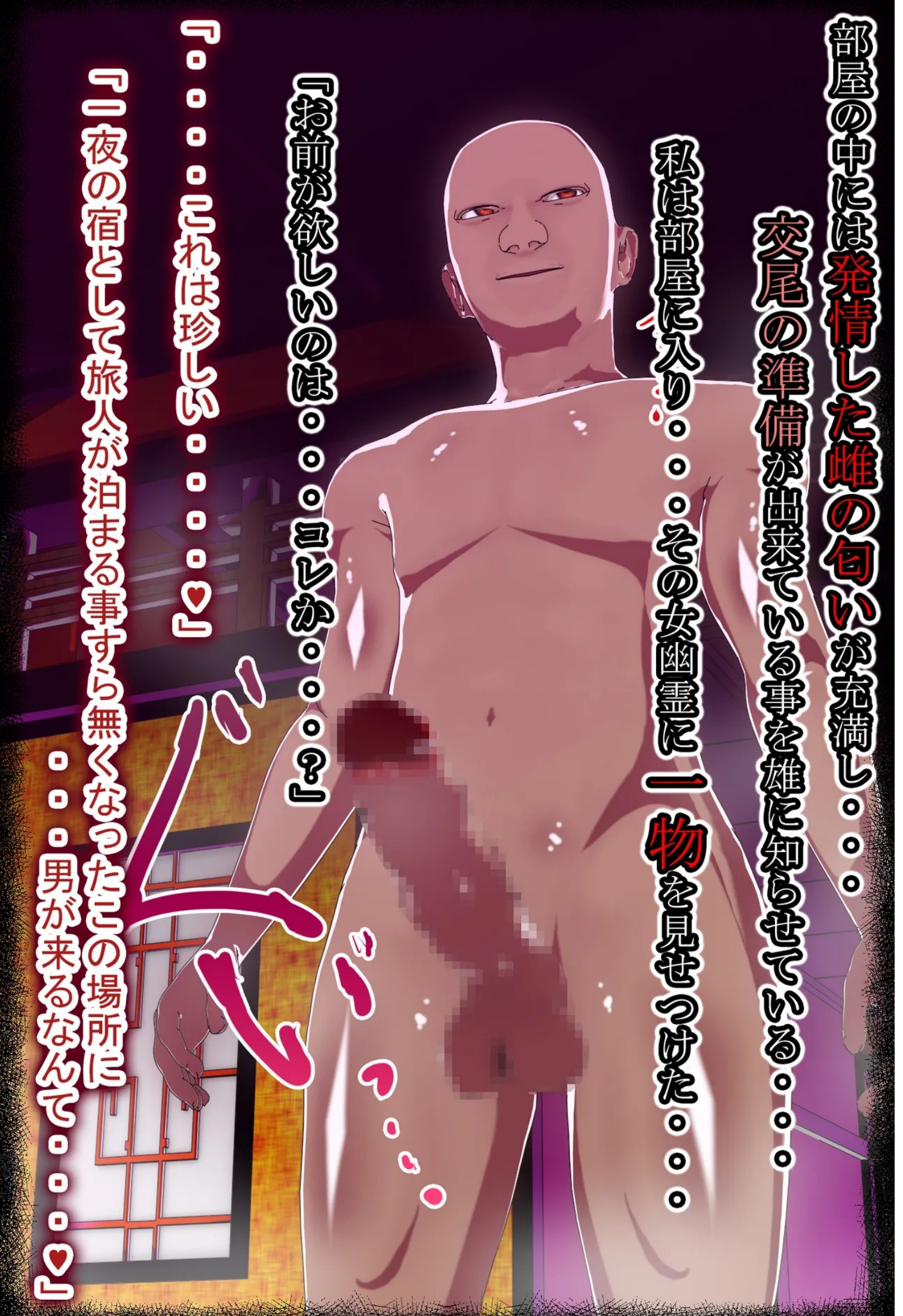
私は部屋に入り。。。。その女幽霊に**一物**を見せつけた。。。。

「お前が欲しいのは。。。。コレか。。。。?」

「。。。。これは珍しい。。。。」

「二夜の宿として旅人が泊まる事すら無くなったこの場所に

。。。。男が来るなんて。。。。」



「それに。。。なんと嬉しい男根。。。♡」

「。。。いいのかい？。。。私は人を取り殺す悪霊。。。♡」

「そんな私を。。。本当に抱きたいのかい。。。？」

「安心しろ。。。私は取り殺されんよ。。。」

「お前を従順な性奴隷として飼育する為に

。。。に。。。来ているのだからな。。。」

とんぱ♡

♡♡♡

♡♡♡

「性奴隷。。。。♡♡悪霊を。。。。？」

「♡冗談が上手いお方で。。。。♡♡♡」

「本当に冗談か。。。。？」

「お前様も。。。。この男根の虜になってるんじゃないのかな？」

「股ぐらに愛液でビシビシビシビシじゃないか。。。。」

ズツ♡♡

♡♡♡♡♡

『。。。♡』

『女なら。。。生娘だっ。。。♡』
『。。。♡』

『こんな美味しそうなオチンポ。。。初めて。。。♡』

『そのいやらしい肉穴にプテ込んでほしいなら

おねだりしてみる。。。♡』

『遊女なら。。。心得があるだろう。。。♡』

『。。。旦那様の逞しい肉棒。。。♡♡』

『さらさらしく涎を垂れる私の肉穴に突き立ててください。。。♡♡』

んはあ

♡

くちゅゅ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

『命が惜しくないのであれば。。。♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡』

んがっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

『旦那様か。。。良い呼び方だ。。。♡♡』

『私の男根で服従したら。。。お前を嫁にしてやる』

『ラララツ。。。できる物なら。。。♡♡♡』

『ホラ。。。行くぞ。。。』

『。。。♡♡♡』

（んひらひら。。。♡♡♡）

意識。。。飛ぶ。。。♡♡♡）

（想像以上。。。子宮の気持ちいい場所が。。。♡♡♡）

（肉棒で。。。蹂躪されてる。。。♡♡♡）

Handwritten signature in the bottom left corner.

意識っ。。。飛ぶっ。。。♡♡♡

「入れただけで。。。このありさまか。。。」

（。。。♡♡♡）

「ビョンブン撒き散らしながら意識失いあがって。。。」

「。。。共あいら。。。」

「暫く穴を弄んでやるか。。。」



「また意識を失っているようだし。。。起きるまで穴を調教して遊ぶか。。。」

「雄を喜ばせる穴があるって事だけが

女の存在理由なんだから。。。しっかり頭張ってくたよ。。。」

ぐちゅっ。。。♡♡♡

あゝ

「ヨイツの肉穴。。。」

意識が無くてもウネウネ動いてタヨみたいだ。。。」

ぐわん♡♡

「ふふふ。。。。人間でも妖でも。。。。」

「マンコを蹂躪するのが。。。。一番楽しい。。。。」

「俺は何人も女を凌辱し。。。。」

「雌に変えてきた。。。。」

「お前も。。。。従順な性奴隷の二匹としてやる。。。。」

「。。。。あんっ。。。。」

「フフツ。。。。意識が無い間に」

「人間の肉棒に服従させられるとは。。。。馬鹿な奴だ。。。。」



「意識が無い女を十回以上犯すなんて。。。無粋な方。。。」

「。。。お前。。。っつねっ♡
自分の体の変化に気づかないのか？」

「ふっ♡」

「変化。。。っ？」

「。。。俺の肉棒を見て。。。その匂いを感じてみる。。。♡」



「お前が望むなら。。。。」

私の**性奴隷**として**飼育**してやるら。。。。♡」

「この**凶暴な肉棒**。。。。もっとな欲しくはないか？」

「今もマンコを弄って欲しくて仕方がないんだらう。。。。？」

「。。。。本当に無粋なお方。。。。♡♡」

「女にそんな質問をするなんて。。。。♡♡♡♡♡」

~~アヒン~~



「ぶっとい肉棒に服従したいに

決まっていますじゃありませんか♡♡」

「早く性奴隷として。。。旦那様に飼育されたい♡♡♡♡」

「悪霊なんか辞めて。。。♡♡♡♡」

旦那様専用の肉穴として一生を捧げます♡♡♡♡」

「ぶっあ♡♡♡♡」

「ああ。。。この瞬間が一番気持ちいい♡♡♡♡」

「犯した雌が従順になる。。。この瞬間が♡♡♡♡」



「旦那様あ。。。♡♡早く私の涎まみれの肉穴犯して♡♡」

「おまんこでおちんぽしゃぶりたいのお。。。♡♡♡♡」

。。。フッフッフ。。。**良い事**を思っただぞ。。。♡♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡

んげっ♡

んげっ♡

「じゃあ。。。交尾に条件を出そうか。。。」

「お前と中の良い妖の雌を二匹私に差し出せ。。。」

それが出来るならマンコをたっぷり可愛がらせてやるわ。。。♡♡」



『。。。差し出します♡♡』

中の良い妖を呼び出して。。。性奴隷として捧げますっ♡♡』

『だからっ。。。友達裏切るからあ♡♡』

旦那様の肉棒でおまんこ滅茶苦茶にしてえ。。。♡♡』



『仲間を裏切っつまで交尾をねだるとは♡』

女と言ひ奴は。。。』

『だって友達より。。。』

まんこで肉棒しやぶる方が幸せなんだもん。。。♡♡♡♡』

「だが。。。その言い所は嫌いじゃないぞ。。。♡」

「お前も。。。その友達も。。。♡♡♡」

私が飼育してやる。。。♡♡♡」

「あんっ。。。♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「女が一番輝く瞬間は。。。♡♡♡」

逞しい肉棒で弄ばれている時だからな。。。♡♡♡」

「。。。その。。。女の幸せを教えてやる。。。♡♡♡」

「オラッ！」

「ああああ」

「ぎもぢい」

「このおちんぽ様」

「あ」

「あ」

「仲間を裏切って手にした肉棒はどうだ？」

「。。。最高っ。。。大事な物が全部。。。♡」

「旦那様のおちんぽにっ。。。塗り替えられてっ。。。♡」

「今まで取り殺してきた人間達は。。。」

「こんな**幸せ**与えてくれなかった。。。。。。」

「女を雌にしてくれるのは旦那様の様に。。。」

「**力**で子宮を服従させられる人だけなんだ。。。。。。」

「あんっ。。。。。。♡♡」

「どんな生物も。。。。。。**力**の強い者を求めるからな。。。。。。」

「オラツ。。。。。。中に出すぞっ♡♡」

「はあああ。。。。。。子宮の中が**幸せ**で満たされる。。。。。。♡♡」

「目が見えぬからと親に売られ。。。。」

好きでもない男の相手を無理矢理させられていた過去の私。。。。」

「私が現世に縛られているのは。。。。」

男への復讐の為だと思っていたけど。。。。」

「。。。。違った。。。。♡♡」

「本当の女の喜びを教えてください」

旦那様と出会い。。。。♡♡」

「。。。。**性奴隷**として飼育される為だったんだ。。。。♡♡」



「何を呆けている。。。一物の掃除をしるー！」

「すみません。。。旦那様。。。♡♡♡」

「。。。オチャンポ様。。。素敵。。。♡♡♡」

「あんなに射精したのに。。。まだこの大きさ♡♡♡」

「強い雄の匂いも。。。最高の。。。♡♡♡」

あ♡♡♡

ぐっ♡♡♡



「お前が差し出す妖の女はどんな奴なんだ。。。。？」

「大柄な鬼の娘です。。。。♡♡♡」

「マンコの肉もキツキツで犯し甲斐があると思いますよ♡♡♡」

は

♡♡♡

♡♡♡

「鬼の娘か。。。。暴れたりしないだろうな？」

「大丈夫です。。。。私が金縛りで押さえつけますから。。。。」

な

お好きに犯してください。。。。♡♡♡」

「酷い奴だ。。。友達が犯されると言うのに

その手助けまでする気なのか。。。♡♡」

「だって。。。私には旦那様が。。。♡♡♡♡」

旦那様の肉棒が必要なんだもん。。。♡♡♡♡」

「もっと可愛がってほしいの♡♡♡♡」

遅い肉棒で愛して欲しいのお♡♡♡♡」

「分かった分かった。。。♡♡♡♡」

これからもずっと可愛がってやるよ♡♡♡♡」

「旦那様あ。。。♡♡♡♡」

悪霊を従順な性奴隷に出来た私は。。。。

そいつを使い。。。。

新たな性奴隷を捕獲する事にした。。。。

「。。。。本当に。。。。女の飼育は面白い。。。。♡♡♡」

マンコが気持ち良くなる為に。。。。

心を捨てるのだから。。。。♡♡♡

「何匹飼育しても飽きが出来ない。。。。最高の趣味だ。。。。♡♡♡」



製作
サークル「聖クロネコ騎士団」

ブログ

<http://seikuroneko.blog137.fc2.com/>

著作者の許可無しに
この作品をインターネット公開
無断配布する事を禁止します。



CG集画像

台詞無し



















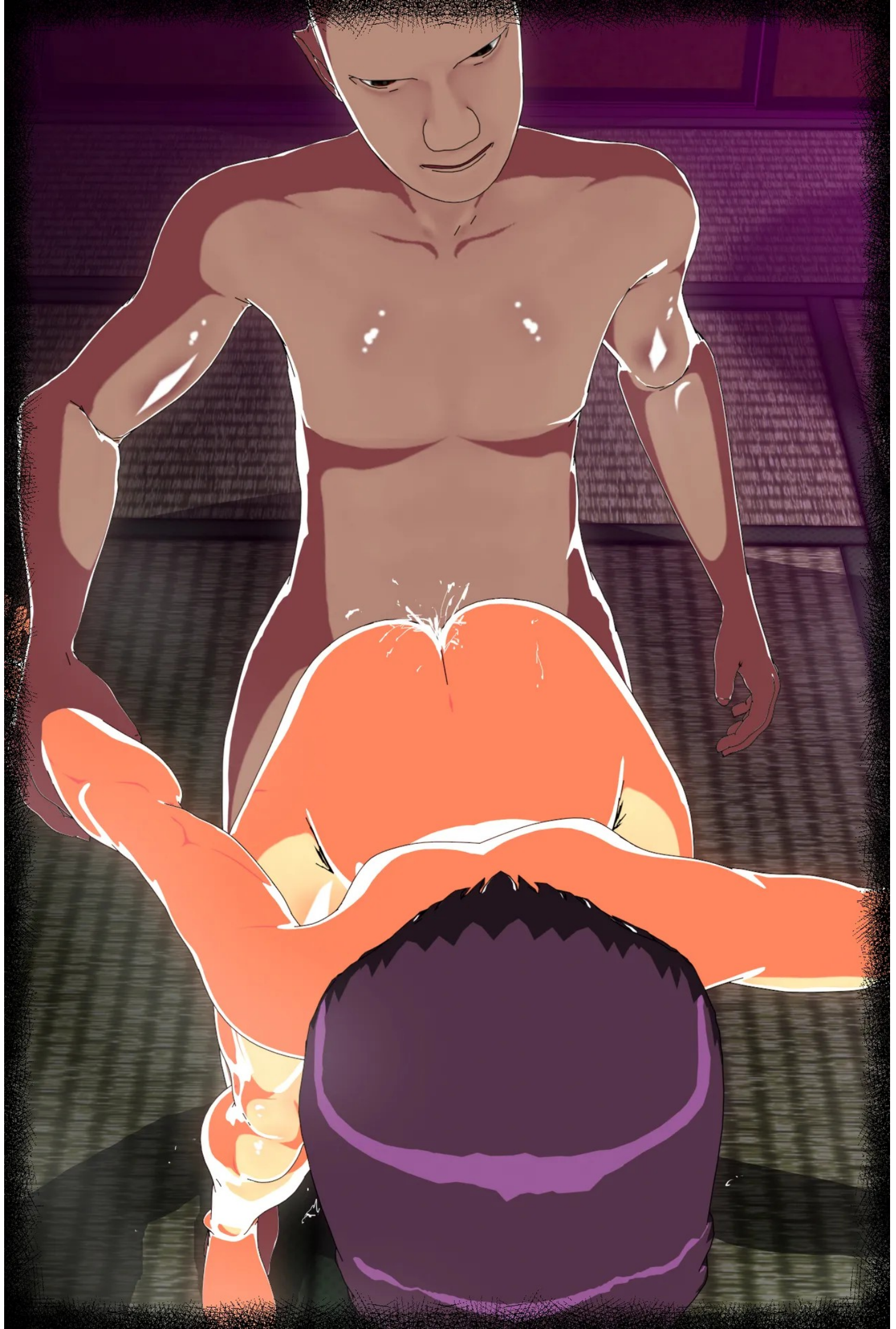












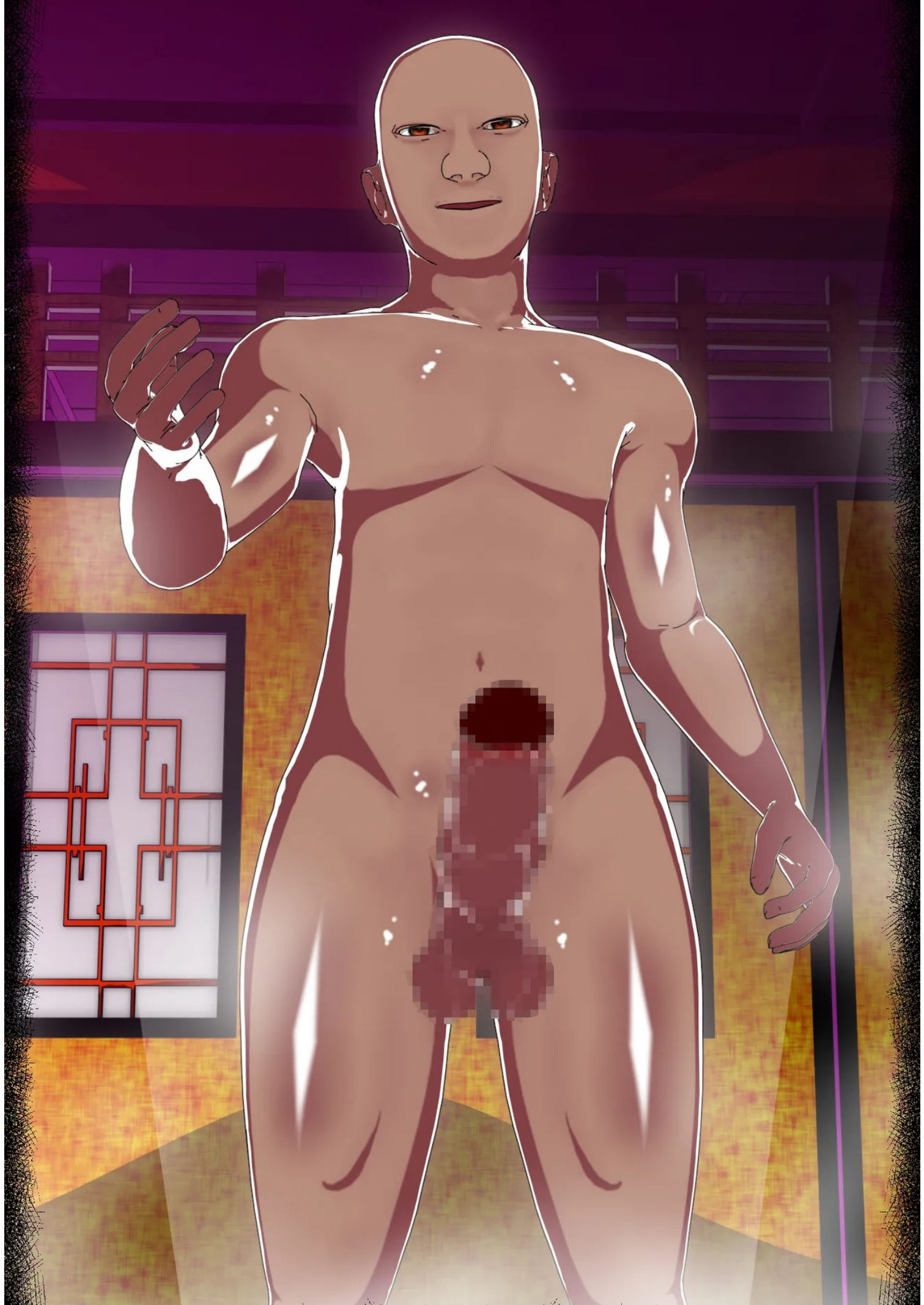






















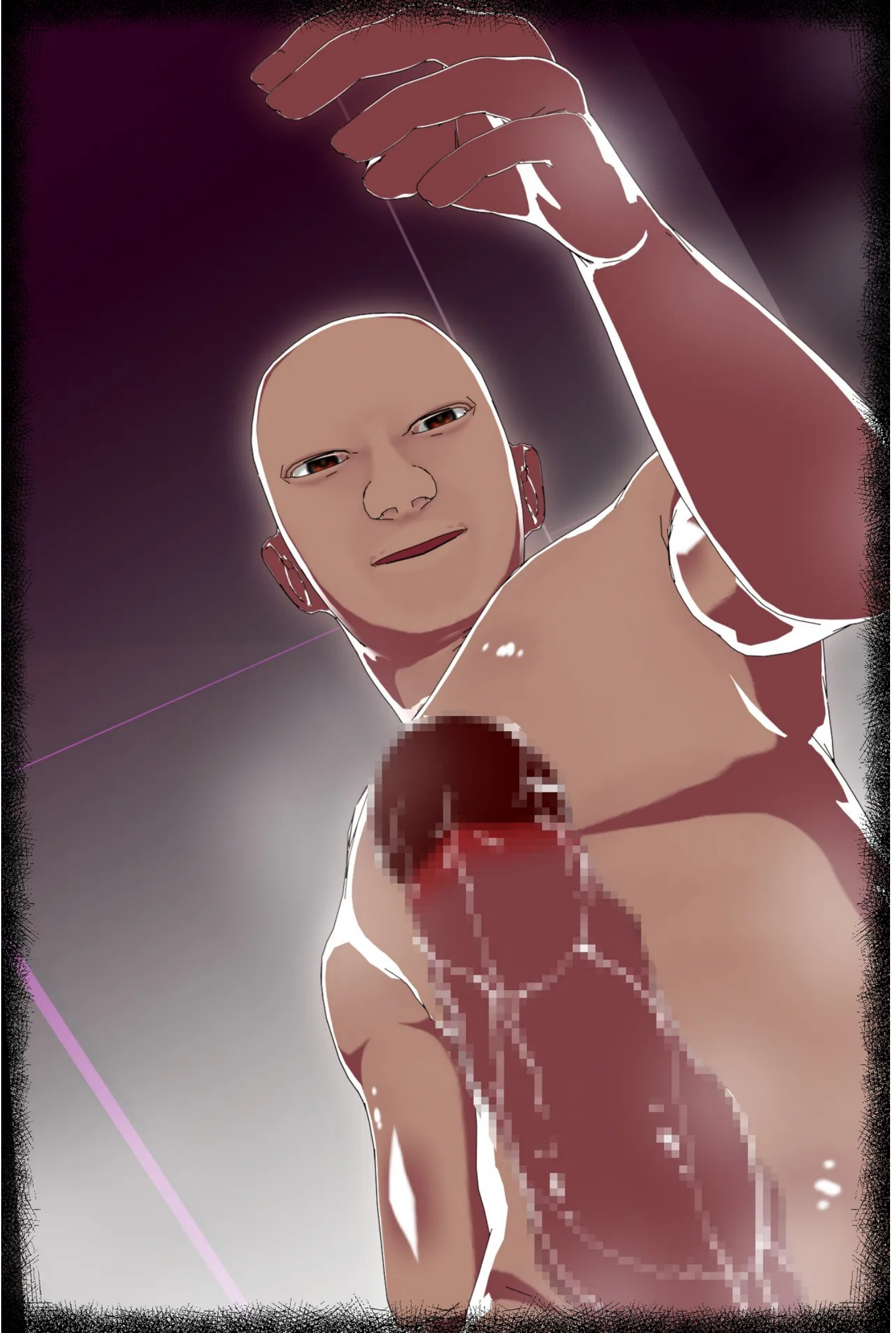












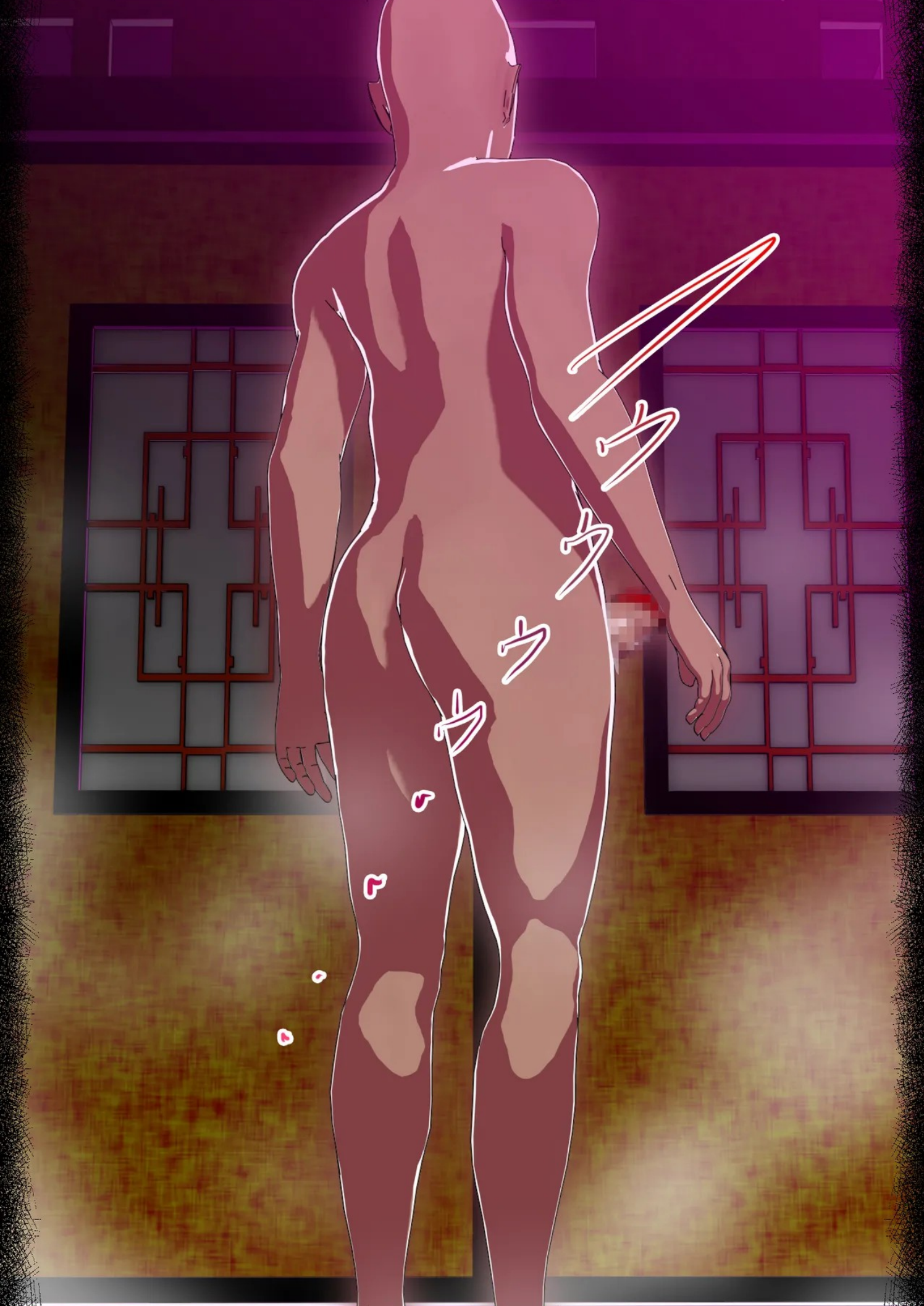
A CG illustration of a woman with short black hair and glasses, smiling. She is wearing a red bikini top and red high-heeled shoes. She is holding a large, realistic-looking breast-shaped object in her hands. The background is a dark, purple-toned room with a wooden floor.

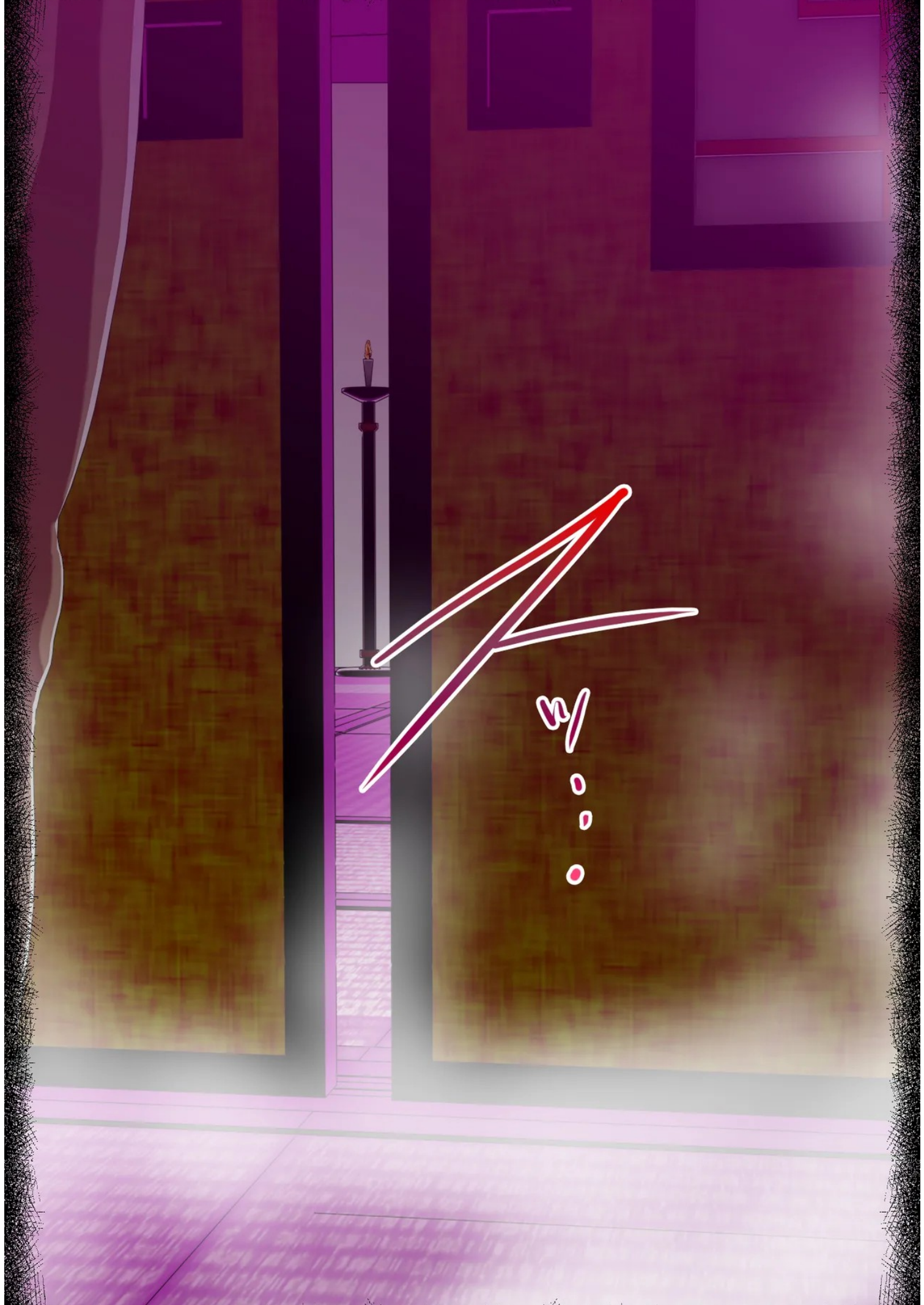
CG集画像

台詞無し

(効果音有り)









おっぱい
おっぱい

おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい
おっぱい







ア
ン
ク
ン



ハッ

キッ







ほろろ

うん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

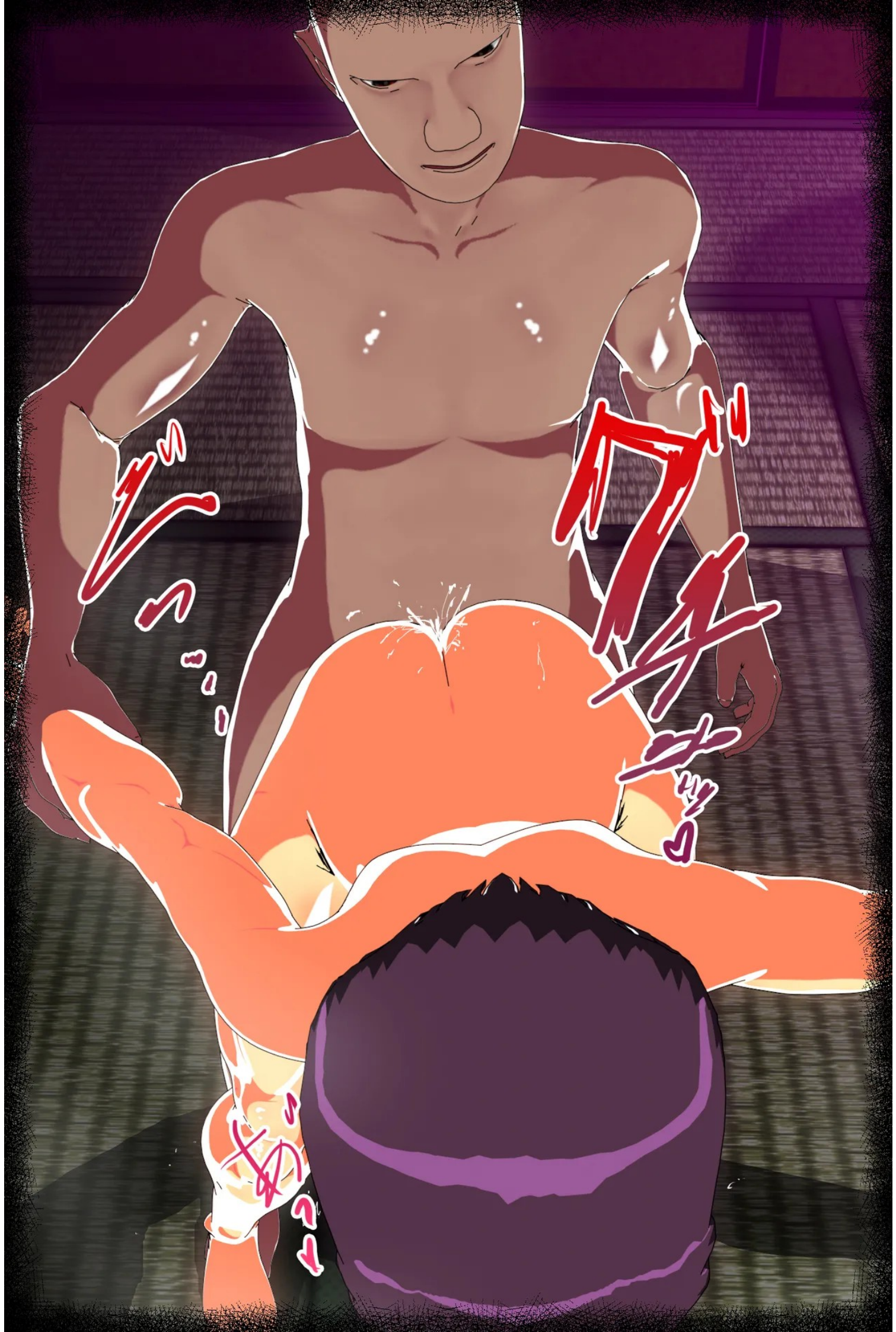
ん

ん

ん









あーん

あーん

あーん

あーん

あーん

あーん

あーん





あーっ♡

はっ♡

うっ♡



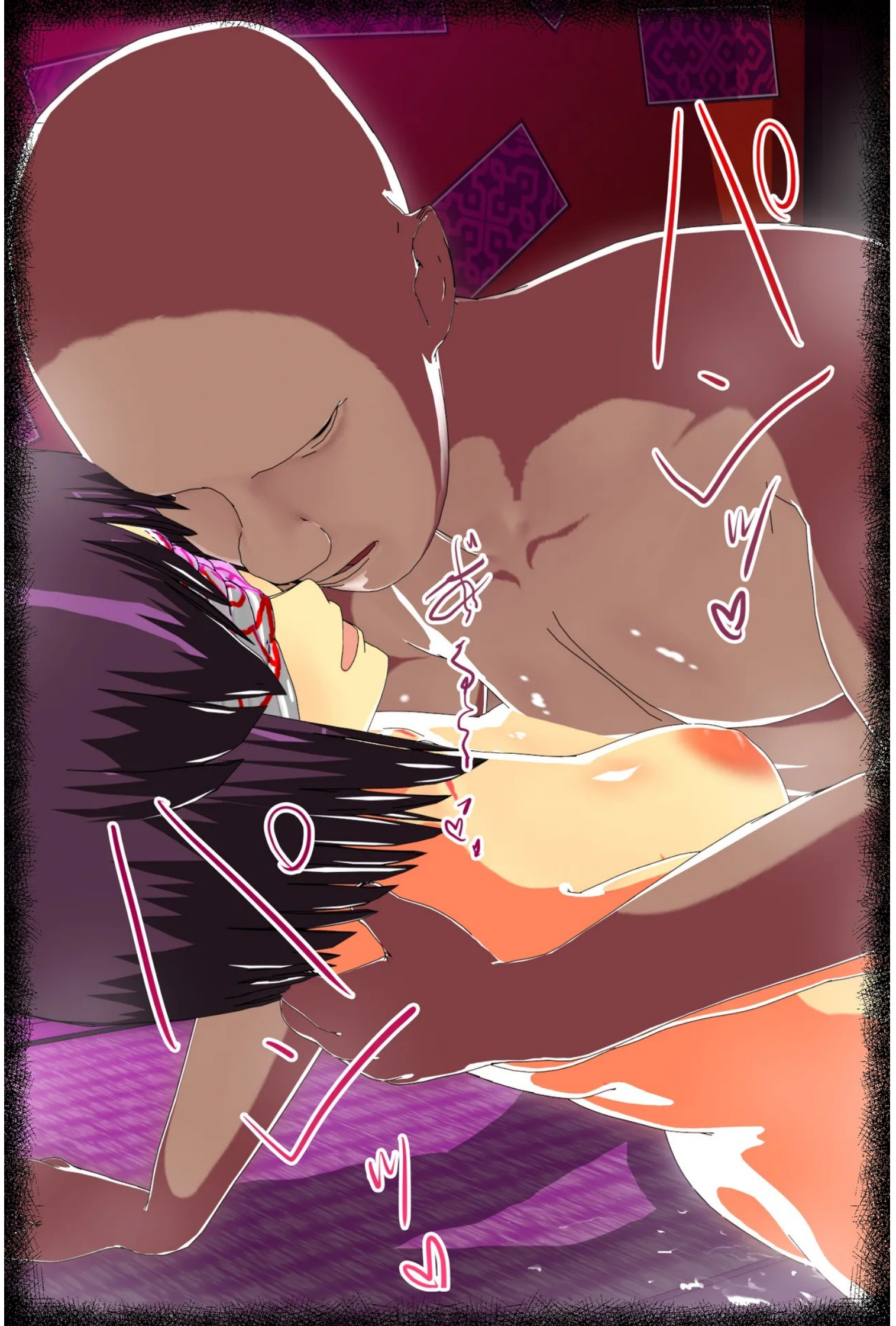
















あ、っ♡♡

♡♡♡♡♡



♡♡♡

は

は

♡

♡

なごなご♡

